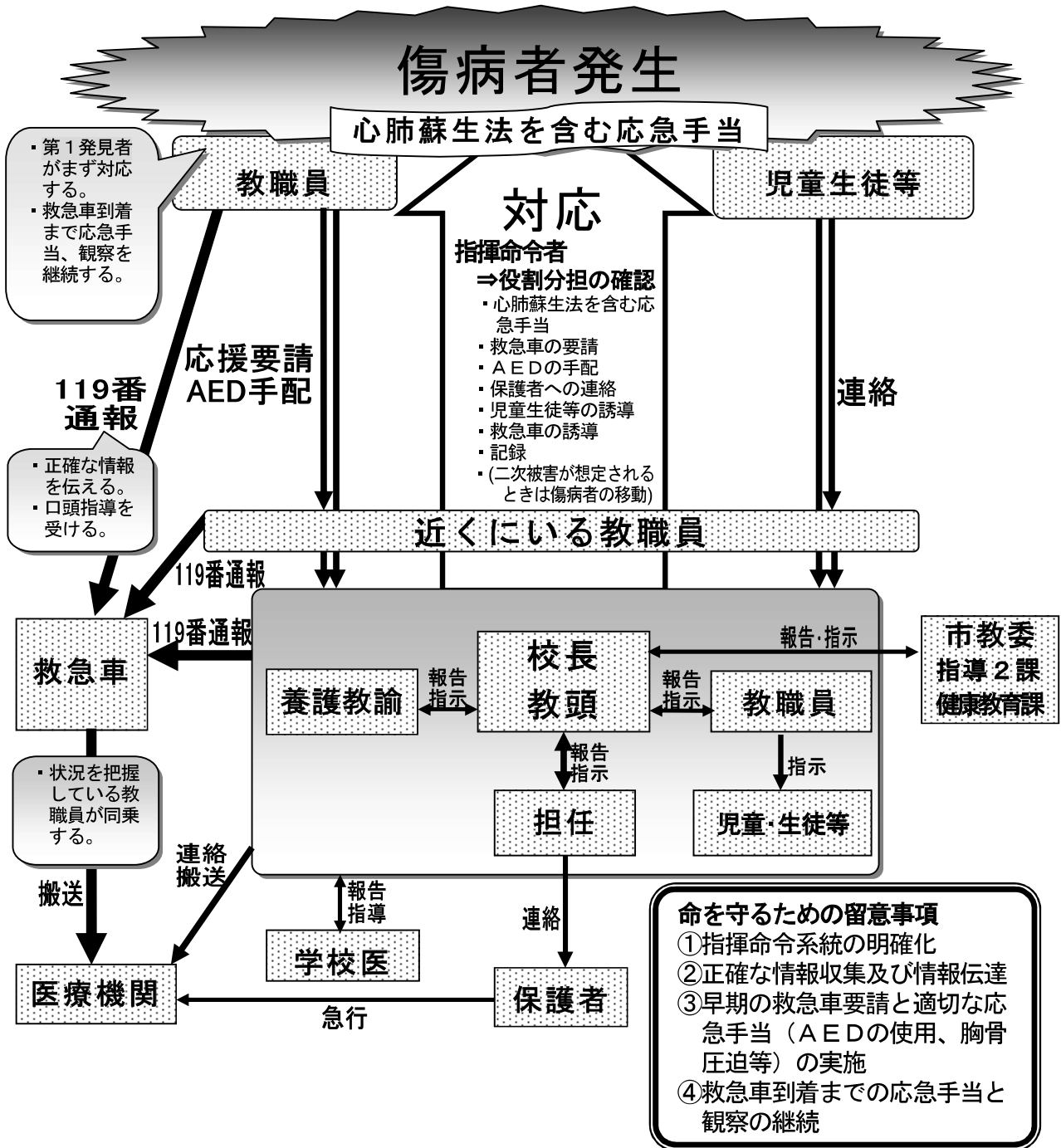


Ⅱ 危機事案への基本的な対応

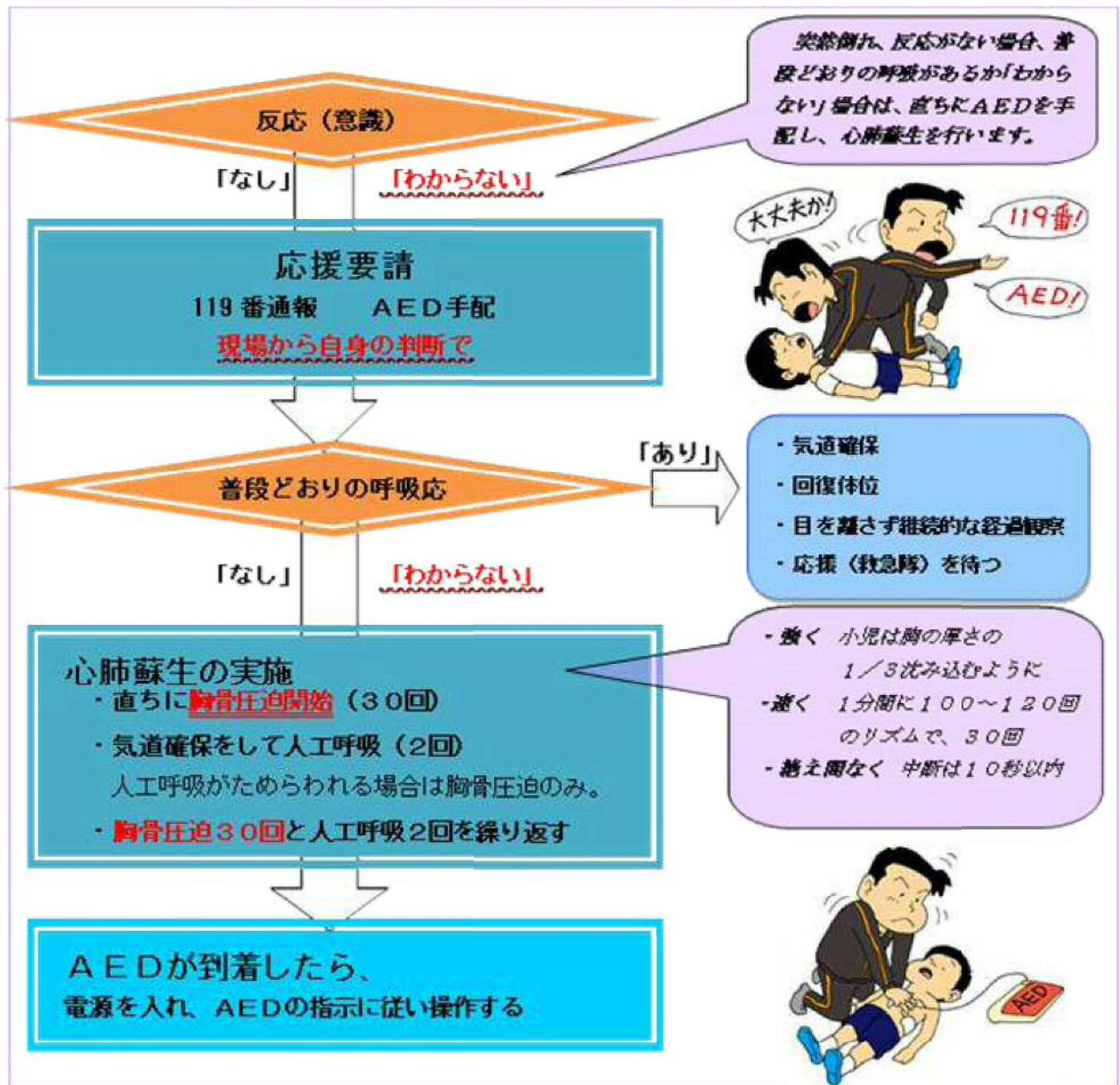
危機発生時（傷病者発生時、不審者侵入時、災害発生時）は、児童生徒等の安全確保を最優先に考えて行動する。特に、傷病者発生時は、心肺蘇生法を含む応急手当をはじめとする対応を組織的に行う。

1 傷病者発生時



- 救急車を要請する時に必要な情報（P.5 参照）**
- (1) 住所（現在地）
 - (2) 傷病者発生の状況（場面、時刻 等）
 - (3) 傷病者について
 - ・年齢、性別 ・症状（意識、普段どおりの呼吸、頭部外傷、けいれんや麻痺、出血の有無等）
 - ・傷病者のいるところ ・治療中の病気やかかりつけの病院の有無
 - (4) 通報者の氏名、通報している電話番号 等

「傷病者発生時における判断・行動チャート」(ASUKAモデルより)



参考 死戦期呼吸(あえぎ呼吸)とけいれんについて

○突然、心停止となった場合、『死戦期呼吸』と呼ばれるゆっくりとあえぐような呼吸や『けいれん』が認められることがあります。突然、目の前で卒倒し、いつもと様子が違う呼吸やけいれんを認めた場合、『心停止の可能性』を疑い、行動を始めることが重要です。

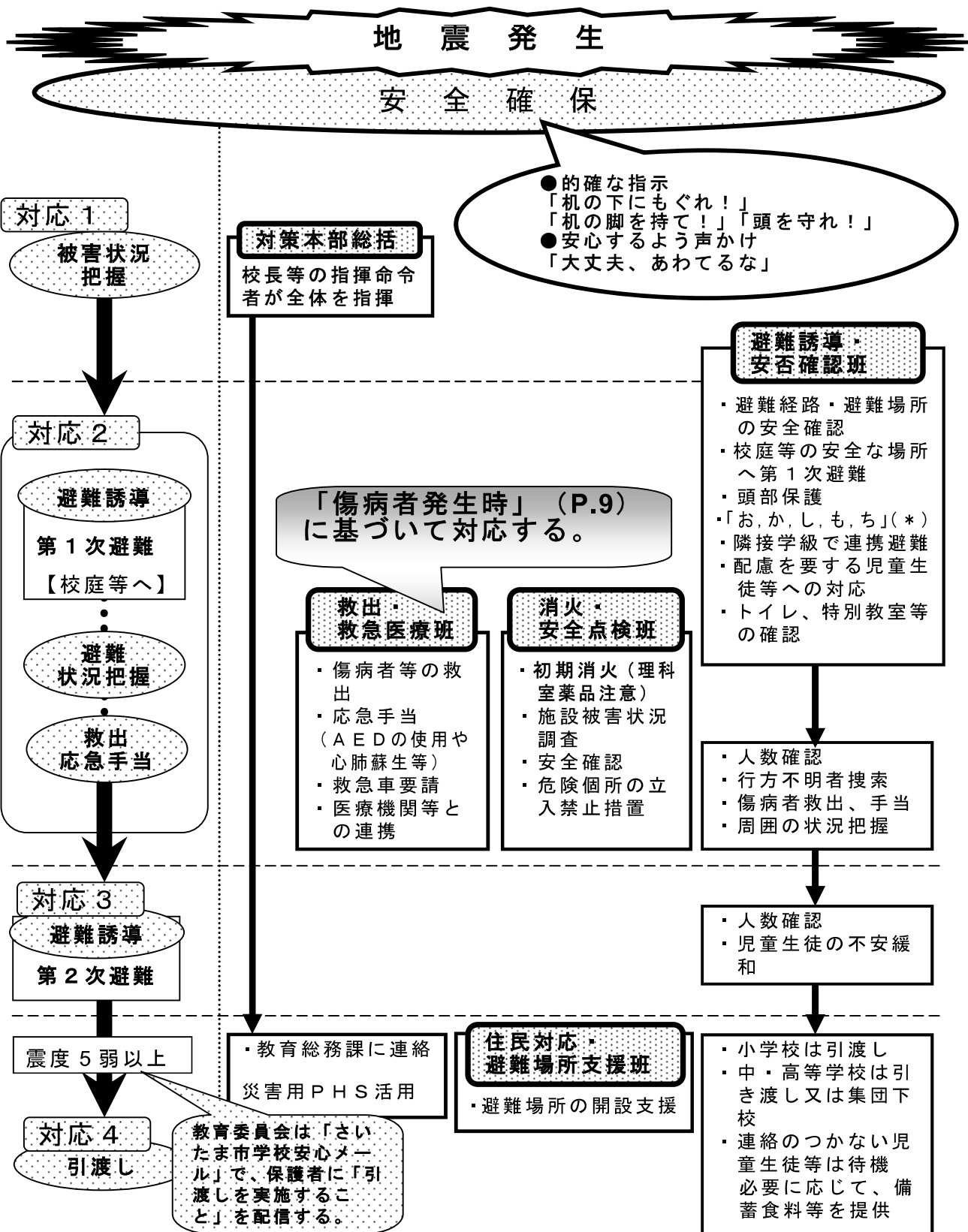
○心停止ではない人に、胸骨圧迫を行ったりAEDを使用したりしても、大きな問題は起こりません。

※『死戦期呼吸』や『けいれん』の判断ができない場合や、自信がもてない場合は、**胸骨圧迫とAEDの使用を開始します。**

*心肺蘇生は、救急隊に引き継ぐか、呼びかけへの応答や目的のある仕草等が出現するまで続けます。(AED使用中は、AEDの音声ガイドに従います。)

2 不審者侵入時【学校関係者以外には非公開とする】

3 災害発生時（授業時における大地震の例）
 （「震災時における児童生徒の安全確保等の指針」参照）



*「お、か、し、も、ち」…おさない、かけない、しゃべらない、もどらない、ちかづかない

＜参考＞ **救急車の要請基準** (総務省消防庁「救急車利用マニュアル」より)

ためらわず救急車を呼んでほしい症状：小児(15歳未満)

**こんな症状がみられたら、ためらわずに119番に連絡してください！
重大な病気やけがの可能性がります。**

顔

- くちびるの色が紫色で、呼吸が弱い

胸

- 激しい咳やゼーゼーして呼吸が苦しく、顔色が悪い

手足

- 手足が硬直している

頭

- 頭を痛がって、けいれんがある
- 頭を強くぶつけて、出血がとまらない、意識がない、けいれんがある

おなか

- 激しい下痢や嘔吐で水分が取れず食欲がなく意識がはっきりしない
- 激しいおなかの痛みで苦しがり、嘔吐が止まらない
- ウンチに血がまじった

意識の障害

- 意識がない(返事がない)又はおかしい(もうろうとしている)

じんましん

- 虫に刺されて、全身にじんましんが出て、顔色が悪くなった



けいれん

- けいれんが止まらない
- けいれんが止まっても、意識がもどらない

やけど

- 痛みのひどいやけど
- 広範囲のやけど

飲み込み

- 変なものを飲み込んで、意識がない

事故

- 交通事故にあった(強い衝撃を受けた)
- 水におぼれている
- 高所から転落

生まれて3カ月未満の乳児

- 乳児の様子がおかしい



◎その他、いつもと違う場合、様子がおかしい場合

ためらわず救急車を呼んでほしい症状：大人

こんな症状がみられたら、ためらわずに119番に連絡してください!
重大な病気やけがの可能性があります。



意識の障害

- 意識がない(返事がない)又はおかしい(もうろうとしている)
- ぐったりしている



けいれん

- けいれんが止まらない
- けいれんが止まっても、意識がもどらない

けが・やけど

- 大量の出血を伴う外傷
- 広範囲のやけど



吐き気

- 冷や汗を伴うような強い吐き気

飲み込み

- 食べ物をのどにつまらせて、呼吸が苦しい
- 変なものを飲み込んで、意識がない



事故

- 交通事故にあった(強い衝撃を受けた)
- 水におぼれている
- 高所から転落

◎その他、いつもと違う場合、様子がおかしい場合

食物アレルギー対応マニュアル

- ◆異変に気がついたら、まずは人を集める
- ◆下記の症状をチェックして、すばやく重症度を判断する
- ◆急激に変化するため、ピークを越えるまでは注意深く観察する
- ◆悪化が予想される場合には症状の出現を待たずに次の対応へ
- ◆少なくとも1時間は観察し、完全によくなるまで目を離さない

<東京都食物アレルギー緊急時対応マニュアルより引用、一部改変>

全身の症状	<input type="checkbox"/> ぐったり <input type="checkbox"/> 意識もうろう <input type="checkbox"/> 尿や便を漏らす <input type="checkbox"/> 脈が触れにくいまたは不規則 <input type="checkbox"/> 唇や爪が青白い				
呼吸器の症状	<input type="checkbox"/> のどや胸が締め付けられる <input type="checkbox"/> 声がかすれる <input type="checkbox"/> 犬が吠えるような咳 <input type="checkbox"/> 息がしにくい <input type="checkbox"/> 持続する強い咳き込み <input type="checkbox"/> ゼーゼーする呼吸			<input type="checkbox"/> 数回の軽い咳	
消化器の症状	<input type="checkbox"/> 持続する強い(がまんできない)お腹の痛み <input type="checkbox"/> 繰り返し吐き続ける			<input type="checkbox"/> 中等度のお腹の痛み <input type="checkbox"/> 1～2回のおう吐 <input type="checkbox"/> 1～2回の下痢	<input type="checkbox"/> 軽いお腹の痛み(がまんできる) <input type="checkbox"/> 吐き気
目・口・鼻・顔面の症状	<div style="background-color: red; color: white; padding: 10px; text-align: center;"> <p>上記の症状が 1つでもあてはまる場合</p> </div>			<input type="checkbox"/> 顔全体の腫れ <input type="checkbox"/> まぶたの腫れ	<input type="checkbox"/> 目のかゆみ、充血 <input type="checkbox"/> 口の中の違和感、唇の腫れ <input type="checkbox"/> くしゃみ、鼻水、鼻づまり
皮膚の症状				<input type="checkbox"/> 強いかゆみ <input type="checkbox"/> 全身に広がるじんま疹 <input type="checkbox"/> 全身が真っ赤	<input type="checkbox"/> 軽度のかゆみ <input type="checkbox"/> 数個のじんま疹 <input type="checkbox"/> 部分的な赤み
		1つでもあてはまる場合	1つでもあてはまる場合		

- ①ただちにエピペンを使用する
- ②救急車を要請する(119番通報)
- ③その場で安静を保つ(歩かせない)
- ④その場で救急隊を待つ
- ⑤可能なら内服薬を飲ませる
- ⑥仰向けにして足を上げる

緊急

- ①内服薬を飲ませ、エピペンを準備する
- ②速やかに医療機関を受診する(救急車の要請も考慮)
- ③急速に進行する場合は左記の対応を行う
- ④座位にして会話しながら観察すると、重症化の判断がしやすい

受診

- ①内服薬を飲ませる
- ②急速に進行する場合は左記の対応を行う

注意

(※このマニュアルはさいたま市民医療センターの資料です。)

アドレナリン自己注射薬（エピペン[®] 注射液）の使用手順



- 1 青い安全キャップを上に向けて、片手でしっかりもつ。
- 2 もう片方の手で、青い安全キャップを外す。



- 3 太ももの前外側に垂直になるようにオレンジの先端を強く押し付ける。
- 4 押し付けたまま、数秒待つ。



- 5 緊急の場合は、衣服の上からでも、注射できる。注射後オレンジのニードルカバーが伸びたことを確認する。

「傷病者発生時における判断・行動チャート」



- ◆救急車への同乗（第1発見者（状況を把握している者）が同乗し、事故発生時からの状況を医師に報告する。）
- ◆最初に来た応援者が指揮命令者となり、対応にあたる教職員に役割分担を指示する。
- ◆管理職は現場到着した時点で指揮命令者と共に指揮命令にあたる。
- ◆他の児童生徒の混乱や動揺を抑えるとともに、噂や憶測により誤った情報が伝わらないよう十分な指導を行う。